

データサイエンスへの期待と現実

臨床の立場から

一般社団法人日本看護管理学会 理事長
東京大学医学部附属病院 病院長補佐・看護部長

武村雪絵

看護管理の関心・目的

- 看護の対象となる人々のウェルビーイング
- 看護職・働く人々のウェルビーイング
- 効果的で生産性が高く、持続可能で健全な**組織経営・組織運営**
- 新しい**サービス・システム**の創出と発展

各現場でさまざまな努力，研究・発表・情報交換も活発

看護の環境（政策・制度）を変える研究の力も実感
関心・目的を共有する様々な関係者との連携・協力が必要

看護の現場に生じている変化

- 物価・人件費の高騰による**経営状況の悪化**
 - **人材不足の深刻化**
 - **多様な人材が多様な働き方を選択**
- 看護体制・看護の質を維持するための努力
- 医療の高度化・専門分化が進み、看護職により**高度な知識・スキル、高い倫理性、多職種・施設間で連携・協働する力**が求められる
 - 看護領域のエビデンスが蓄積され、ガイドライン開発が進む一方で、施設による**情報格差**が存在
 - 診療報酬が誘因となり新しいアセスメント・ケアの導入が進むが、**一連の看護過程として統合されないままタスクが増加**

疲弊する現場では「よい方向に変わっている」という実感が必要

「標準化」も「個別化」も

- 看護は、人々のウェルビーイングに深く関わるからこそ、
どこでも誰でも良質な看護ケアを受けられるようにする責任がある

➡ エビデンスに基づく適切な看護を「標準」として実装する方略が必要

- 看護ケアの選択やその効果は、個別の価値観や生活環境など多様な要因が
影響するため、複雑性を考慮した「個別的」なケアが求められる

➡ 実践知や関連要因の解明と並行して、その知を実装する方略も検討を

疲弊する現場には、どんな変化も負担だが、
よりよい看護を提供するための合理的な変化は引き受ける

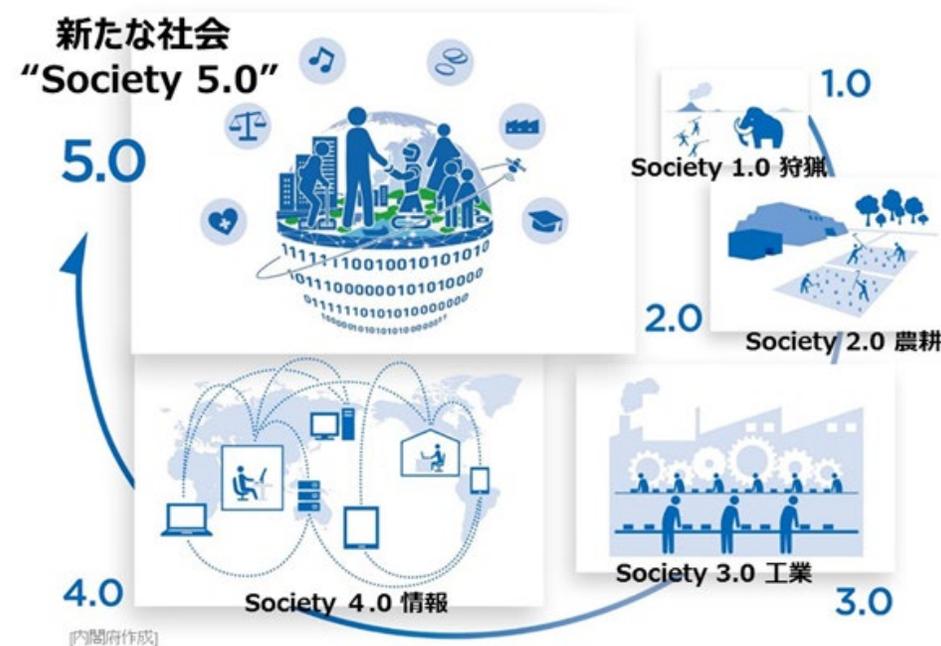
Society 5.0 の実現に向けて

第5期科学技術基本計画（2016年）

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、**経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会**

第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年）

持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会



科学技術・イノベーションによる課題解決への大きな期待

総合知（自然科学、人文・社会科学）の創出・実装に貢献する意思

研究協力は「言うは易し、行うは難し」

大規模な看護師データベース・医療データベースを用いて、Evidence Based Policy Making（根拠に基づく政策立案）を展開している国や州があることやその恩恵・価値はもちろん理解している

現実

看護協会、公的研究費による政策研究、所属団体のデータベース事業…
調査によってデータの抽出条件・定義が微妙に異なり、調査に大きな労力

一つ一つの研究の意義ももちろん理解している

現実

年間数百件の研究協力依頼が届く…

提案① 今あるデータの研究利用

施設外へのデータ提供のバリアを解決する必要

現場には大量のデータがある

- **患者情報**

- 年齢、病名、受診歴、治療歴
- 適用クリニカルパス、説明文書
- バイタルサイン、意識レベル、検査、薬剤、安静度、食事摂取量、排泄、患部写真…
- 看護記録（主訴、観察所見、アセスメント、看護問題、看護計画、実践、看護要約）
- インフォームドコンセント記録、カンファレンス記録、専門チーム記録
- 重症度、医療・看護必要度
- 離床センサー、体動センサー、体温・心拍センサー、ナースコール

- **診療報酬・請求関連情報**

- 診療報酬算定
- 使用した医療材料
- 各種帳票

現場には大量のデータがある

- **看護師情報**

- 勤務管理システム（勤務割振計画、勤務割振実績、各種休暇、時間外勤務）
- 人事管理システム（採用、休業・休職、配置転換、昇進、退職）
- 教育管理システム（キャリアラダー評価、コンピテンシー評価、研修歴、役割遂行歴）

- **管理関連情報**

- 患者数、手術件数、看護度、緊急入院・定時入院
- 病床利用、病床移動、在院日数、転帰
- インシデント発生、転倒転落、褥瘡発生、感染症サーベイランス
- 離職率、病休発生状況、育児制度利用状況、看護師配置、夜勤要員、年休取得状況
- 患者エクスペリエンス調査、職員エクスペリエンス調査

- **質指標調査、データベース事業（DiNQL等）**

後方視的分析で抽出できる「看護の知」

当院看護職員が行ったラダー研究

看護学研究者の研究支援

- **定量的分析**

当院におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術後患者の排便状況および看護記録の実態調査
(新 理菜)

- **定性的分析**

当院の緊急血液透析導入患者の透析の心理的受容に関連した訴えと看護の実態調査
(鈴木 香奈)

患者や家族の発言や実施した看護・支援が記録されていた

➡ **看護ケアの質向上につながる知見**

看護記録の研究利用を推進することで、新たな看護の知の生成・共有が
活発となり、多施設研究の課題設定・検証につながる可能性

管理的意思決定に役立つデータ分析

看護管理者として

- 経年変化
- 他施設との比較
- 安全・質指標との関連
- 費用対効果



- 現場の課題・問題を可視化
- 関係者と課題・問題を共有し、方策を検討
- 方策の有効性評価

院内の課題解決のための利用

- 分析しきれないデータが多数

- 公表にはハードル

施設データ・多施設データの研究利用を促進できれば、
「看護管理の知」の生成・共有、政策立案が加速する可能性

看護師の健康・成長との関連要因、患者アウトカムとの関連要因、施設特性による有効な方策の違いなど

提案② DXの現場に研究的に参加

情報の在り処・活用方法が劇的に変わる今だから

看護業務効率化・生産性向上に向けたDX

今、ここで、利用できる情報を得て、業務・看護が「変わる」

- データを収集 → 加工 → 即時可視化 → 即時共有
- 指標のモニタリング・AI予測

看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション促進事業 (2024年)

看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション効果検証事業 (2025年)

医療施設等経営強化緊急支援事業 (緊急支援パッケージ) 「生産性向上・職場環境整備等支援事業」 (2025年)

開発・導入プロセス、現場で起きる変化、効果に影響する要因を研究することで、効果的な導入・展開や政策的な意思決定に役立つ

提案③ これからの看護記録を考える

看護職が看護に集中し看護の成果を実感するために

実践証明・情報共有のその先へ

- 看護の思考過程・実践過程を支援する（せめて妨げない）記録へ
（必要な情報はデータプールから抽出・出力）
- データの利活用を前提とした記録へ
（施設を超えた利用）
（実践と研究の好循環を加速）
- 新しいエビデンス（標準）を吸収できる構造で

記録をどう構造化するかが重要

十分に議論し、ビジョンに向けて、強いリーダーシップを期待

人々・看護職のウェルビーイングを実現するイノベーションを